

J R 東日本労働組合

N A G A N O

E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp



2021年 10月 12日 No. 415

JR東日本労働組合

長野地方本部

発行者：臼井幸一

編集：情宣部

間もなく！

# 2021年度年末手当の 取り組みが始まります！

2020年度の年末手当は「3.0ヶ月」要求に対して「2.2ヶ月」回答でした。

コロナ禍により赤字決算であったとしても、2019年度までの経営が右肩上がりの時は毎年のように「3.18ヶ月」回答だったことを考えると、あまりの低額回答に落胆の声がたくさん聞かれました。

この10月からは「コーヒー」「小麦粉」「マーガリン」「冷凍食品」「電気料金」「ガス料金」「ディズニーリゾート」「紙巻たばこ」などの生活必需品や嗜好品などの値上げが相次ぎました。最近カップラーメンなども高くなったと思いませんか？

21世紀に入ってから日本の賃金はほとんど上昇しておらず、G7ではイタリアと最下位を争っています。「長年働いていても給料が上がらない」「生活が苦しい」と感じている人が多くいると思います。OECD（経済協力開発機構）加盟38か国中、購買力ベースの平均賃金で日本は22位となっていて、アメリカ合衆国の半分強、OECD平均以下となっています。

イギリスのエコノミスト誌が公表している「ビッグマック指数」によると、日本のビッグマックは390円、為替レートで換算すると3.55ドル、アメリカのビッグマックは5.65ドルで日本のビッグマックはその62.8%、ビッグマックも賃金格差もデータはほぼ同じです。実質賃金が上がらなかったことに問題があります。

JR東日本はコロナ禍以前、毎年のように最高益を更新していましたが、ボーナスは横ばいでした。日本の賃金が上がらない理由の一つに「労働組合の弱体化」があります。雇用維持だけを優先して経営側に賃上げを強く要求してこなかったことも賃金が上がらない原因になっています。

まだまだ油断してはいけませんが、ワクチン接種もだいぶ進み、非常事態宣言も解除されました。私たちはコロナ禍前も後も変わることなく現場で汗水流して働いています。労働組合が会社に対し年末手当をしっかりと要求し、たたかいをつくりだす事が必要ではないでしょうか？

**私たちが当たり前生きていくために賃金・手当を要求していこう！**